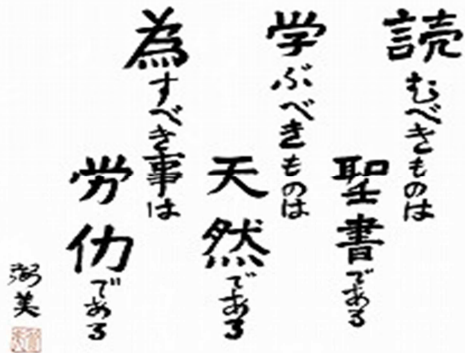


2019年11月30日発行

無教会研修所のことも

驚見 誠一



2009年4月発行の『今井館の歩み—開館百周年記念誌—』に今井館を利用する諸団体の活動として研修所に関して小文を書いたが、今回、今井館ニュースに研修所についてエッセイを書くようにとの要請があったので、それから10年の歩みを省みてみたい。

まず、私は2015年1月に大病に罹り4ヶ月入院したので、研修所運営委員会の代表を旧約聖書学者として名高い月本昭男先生に2016年4

月から替わっていただいた。その月本先生が、研修所が主催し、今井館教友会が後援している「聖書学習講座」の受講の手引きの第1ページに「無教会研修所の基本理念」と題して、我々の考えと立ち位置を余すところなく述べておられる。

そこでは、研修所は「無教会」を特定の教派的立場に立つとは考えず、混迷と先行き不透明な社会と時代状況の中で、ひたすら聖書に集中し、信仰の先達に学んで迷わず歴史の中を歩むことが目的とされている。しかもこのような営みは、目に見えない「キリストの体」である「エクレシア」に連なることであり、事実、100名を超える受講者の中にはカトリック信徒、プロテスタント諸派の方々が数多く在籍しているのである。

このような状況に関連して、意義深い指摘をカトリック信徒で評論家として有名な若松英輔氏から伺うことになった。今年3月24日（日）に今井館聖書講堂で開催された「内村鑑三記念キリスト教講演会」において若松氏は、内村の提唱した無教会キリスト教の「無」は「超えること」を意味すると定義し、それは「教会を超えて彼方の教会を目指す」ことであると述べられた。「彼方の教会」とは、前述の今は目には見えない「キリストの体」なる「教会・エクレシア」であると私は確信している。

本稿を書くにあたり、今井館教友会・定款を久しぶりに再読したが、第3条「目的」☆に明記されている内容を、無教会研修所はこれまでも実践してきたし、今後も小さな歩みとはいえ継続していかねばならないと肝に銘じたしだいである。

(無教会新宿集会、慶応義塾大学名誉教授)

☆今井館教友会定款 第3条目的

この法人は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする。

目 次

表紙・巻頭	学校・学寮だより……………6
目次・内村鑑三の言葉	各地からの報告……………10
表紙について・発行趣旨……………2	定期集会・地域別特別集会等……………12
全国集会の報告……………3	事務局便り……………15
第41回内村鑑三研究会 報告……………5	維持会員募集のお知らせ・編集後記……………16

内村鑑三の言葉

秋の用意

内村鑑三

秋が来た。何をなそうか。(中略)秋は静かなる時であるから、頭脳を沸騰(にえくらかえ)するような不平家の論文には眼をさらすまいぞ。さらば何を讀もうか。アア歴史を讀もう。(中略)世界の進歩に現われたる天の聖意を探ろう。すなわち哲学的に歴史を研究しよう。そうして今の政治家輩の経綸策なるものにだまされないようになろう(中略)われらは秋だけなりとも、深き静かなる歴史家となろう。

『万朝報』1901年9月、『内村鑑三信仰著作集』23巻、教文館、1963年

(選：NPO法人今井館教友会理事長 大山綱夫)

○表紙について

「読むべきもの、学ぶべきもの、為すべきこと。」と題された『聖書之研究』95号に掲載された内村の一文を簡単明瞭に表した「基督教独立学園」創立者鈴木弼美による揮毫。第44号で紹介された同学園の教育理念として掲げられている。内村は、時々すべてのものを読むのを止めて、一意専心聖書を読むように、天然教育の欠乏は教育上最大の欠乏である、そして、手と足を以って労働するように、と勧めている。今号の「学校・学寮便り」には愛真高校でもこの言葉が重点週間の講話で取り上げられたことが記されている。無教会研修所の理念にも通ずるものがある。(C.Y.)

『今井館ニュース』発行趣旨

NPO法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三(無教会の提唱者)及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする(定款第3条)。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする(定款第5条3項)。